

第15回独立行政法人農林漁業信用基金漁業災害補償関係業務運営委員会 議事概要

1 日時及び場所

- (1) 日時 令和5年2月28日(火)13時00分～14時7分
- (2) 場所 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階
独立行政法人 農林漁業信用基金 大会議室

2 出席者

※ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響を鑑み、山下委員長以外の委員出席者は、ウェブ会議形式での参加であった。

(1) 運営委員(出資者・学識経験者別 五十音順)

出資者：岩下委員、成田委員、畠山委員、福本委員

学識経験者：山下委員長、市川委員、伊藤委員、深川委員、吉田委員

(2) 信用基金

今井理事長、深水副理事長、北理事、石川理事

(3) オブザーバー(主務省)

原口水産庁漁政部漁業保険管理官

3 提出議案

(1) 審議事項

- ① 独立行政法人農林漁業信用基金の農業保険関係業務及び漁業災害補償関係業務に関する業務方法書の変更(案)について
- ② 第5期中期計画(案)について
- ③ 令和5年度年度計画(案)について

(2) 報告事項

- ① 第5期中期目標の概要について
- ② 令和4年度における漁済連に対する貸付状況及び今後の貸付けについて

(3) 情報提供事項

委員からの情報提供

4 議事経過の概要及びその結果

上記3(1)①から③の審議事項について、信用基金から説明がなされた後、審議が行われ、原案どおり承認された。また、3(2)①及び②について、信用基金から資料に沿って説明がなされた。最後に、3(3)として、出資者委員及び学識経験者委員から、最近の特徴的な動きについて情報提供がなされた。

運営委員からの主な発言等は以下のとおり。

【発言等】

(1) 審議事項

- ① 独立行政法人農林漁業信用基金の農業保険関係業務及び漁業災害補償関係業務に関する業務方法書の変更(案)について

〈 質疑なし 〉

- ② 第5期中期計画(案)について

〈 質疑なし 〉

③ 令和5年度年度計画（案）について

〈 質疑なし 〉

(2) 報告事項

① 第5期中期目標の概要について

〈 質疑なし 〉

② 令和4年度における漁済連に対する貸付状況及び今後の貸付けについて

〈 質疑なし 〉

(3) 情報提供事項

出資者委員及び学識経験者委員から最近の特徴的な動きについて次のとおり報告があった。

- スルメイカは、上半期に何年かぶりに好調であったが、10月以降、漁がなくなった。前半のスルメイカの好漁、共済加入の低下により若干共済金の支払は少なくなっているが、状況は好転していない。
- 浜では、漁業共済・積立ぷらすなくしては沖に出られないと言われており、これらの制度についての浜の信頼がかなり大きい。
- 太平洋側で、イワシの豊漁等によってサバの漁場が形成されない状況となっており、大型まき網でサバ不漁による支払増となっている。また、養殖でも、台風・赤潮・酸欠の影響により支払が増えている。
- 業務方法書の変更、第5期中期計画及び令和5年度計画案の審議について、共済団体の資金繰りが困らないよう対応していただき、感謝。
漁業の厳しい情勢を踏まえ、契約は減少傾向にある。支払は、一昨年よりも減ってはいるが、高位水準での支払が続いている。なお、有明海のノリが、大不作となっているため、年度明け早々に、大きな支払が予想されている。信用基金からの借入れをお願いせざるを得ない状況が続くと思われる。
- 近年の自然界の変化による漁業に対するリスクの増大は、養殖業者にとっても大きな問題である。現在は、積立ぷらす等により、安定・安心して動いている状況であるが、今後、養殖業の成長産業化に向けて、増産計画を立てている生産者もおり、今後の成長に対して後ろ盾をお願いしたい。
- 冷凍マグロの相場は、コロナ・ウクライナ情勢等の要因により乱高下している。昨年は、冷凍マグロの相場が高値で推移したため、増収・増益が多数を占めたが、今年は相場の下落傾向から厳しい経営が予想されるため、漁獲共済・積立ぷらすを活用しながら経営の安定化を図っていきたい。

以上